

壊

され方

おまえの
思い出の

イジイセ



この物語はすべてフィクションです

登場する人物・団体・名称等は架空のもので
実在のものとは一切関係ありません



いよいよ、出資するよ

えいっと
島田君だっけ

あ、ありがとうございます！

20代後半に仲間達と意気揚々と
持ち上げた会社は今や火の車

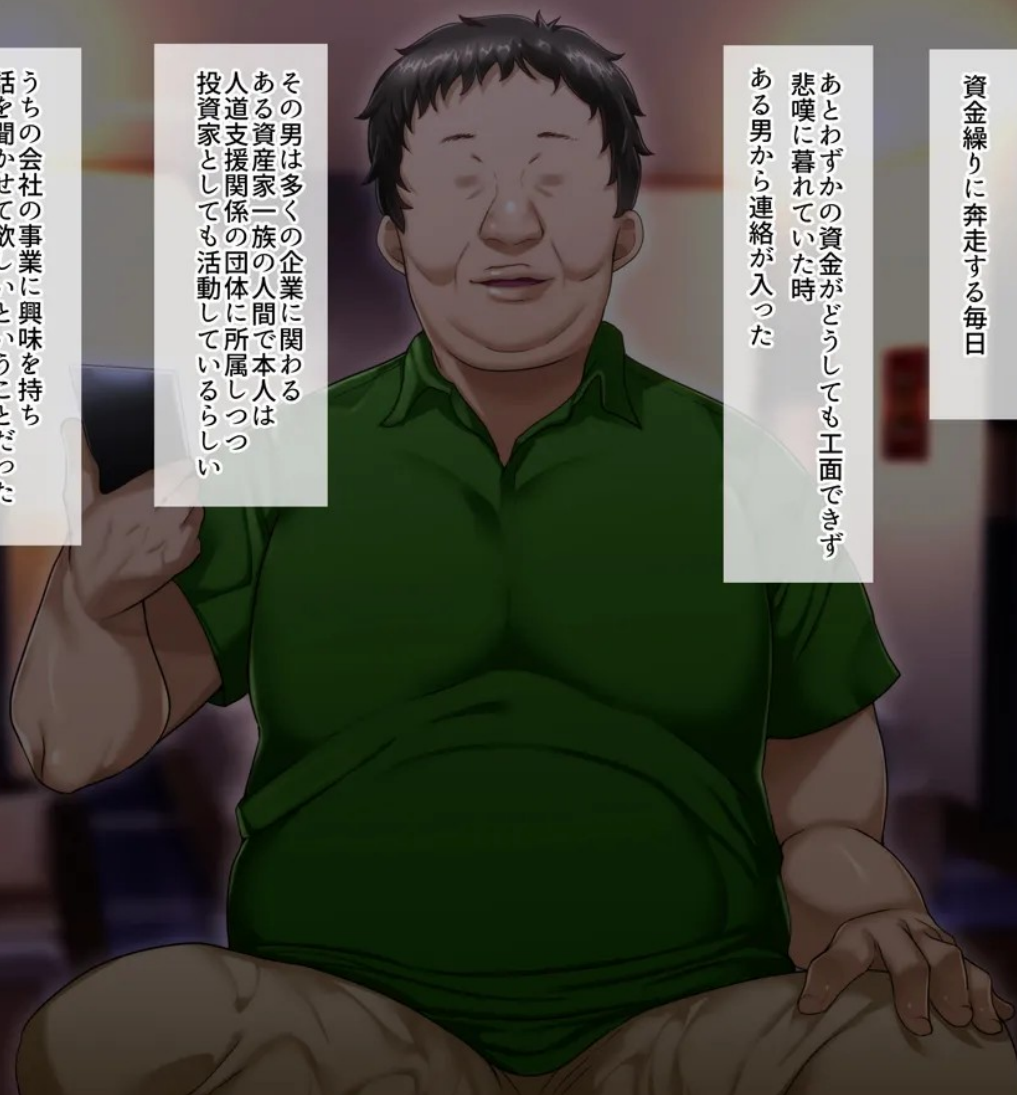
資金繰りに奔走する毎日

あとわずかの資金がどうしても工面できず
悲嘆に暮れていた時
ある男から連絡が入った

その男は多くの企業に関わる
ある資産家一族の人間で本人は
人道支援関係の団体に所属しつつ
投資家としても活動しているらしい

うちの会社の事業に興味を持ち
話を聞かせて欲しいということだった

これは最後の希望だと思った



呼び出された場所で待っていたのは
人道支援の精神とは程遠いむしろ
嫌悪感すら感じる俗物的な男だった

熱心に事業の説明をする俺の話を
興味なさそうに聞いていたかと思うと
おもむろにつぶやいた

えーっと
島田君だっけ

いいよ、出資するよ

あ、ありがとうございます





なんか良い感じな雰囲気
そこはかとなくうつつすら
漂っている気がするし

その程度の額ならいくらでも
準備できるからね

は、はい

ただねえ、僕のちよつとした
お願いを聞いて欲しいんだ

お願い、ですか

うん、そう

それはね：

〽後日〽

この部屋だよな

カキヤツ



だがこうしないと
会社が……

来てしまった……

男の「お願い」それは

「自分が指定した場所で指定した女性と
肉体関係を持つこと」

どんな頼みだと腹が立ち、断ろうと思った
だが会社の事、従業員達のことを考えたら
断ることができず結局引き受けることになって
しまった

前金と言って大金を振り込まれ、完全に
退路を断られた俺は指定された日、
指定されたホテルへと向かった

会社のためとはいえ、これから別の女性と関係を
持つことを妻に申し訳なく思ったが

こんな異常な状況に多少の興奮を覚えていたのも
事実だった

来た！

いやそんなことより今からでも……！
いや……もう無理だ、今更帰るなんて

勝手な想像だがたぶん
とんでもないモンスターが
やって来るんだろうな……

どんな相手が来るんだ

待ってれば相手が来るという
話だが、落ち着かないな

ガッガッ



だってそこにいたのは・

現れた女性をみて俺は
自分の目を疑った



え:

三城...

みつしろまさき
三城真咲?

現れたその女性は

高校時代の同級生
三城真咲だった

まさか……島田くん？





美人で明るく活発で
人当たりもよく
しかも巨乳

当時クラスの男のほとんどが
彼女に恋をしていた

かくいう俺も彼女に恋をしていた
男の一人で、恥ずかしい話だが
あんなに女性を好きになったのは
初めてというぐらい惚れこんでいた

そして実をいうと俺達は
付き合う寸前までいっていた

お互い明らかに意識していて
もう気持ち伝えるだけという時に
彼女が引越すことになり、それっきりだ

ほんとに…久しぶりだな
三城…

今は柴田っていうのよ

ああ、そうか
結婚してるんだったな

数年前、人づてに三城が結婚したと
聞いて少しショックを受けたのを
思い出した

当時すでに俺も
結婚していたんだけどな





げ、元気だったか？

ええ、元気よ
島田君も元気そうね

ああ、身体だけは丈夫でな

.....

.....

なんともいえない
微妙な空気が漂った

そりやそうだ、どこの誰かも
わからない女性を抱くはずが

やってきたのは俺のよく知る女性
だったんだから

この感じだと三城も相手を知らずに
きたんだらう

三城、おまえの事情・

島田君

何？

互いの詮索は・・・やめましょ

ああ、そうだったな・・・

相手の事情や素性は
一切聞いてはいけない
決まりだった

昔とはいえ良く知る仲の二人が
何も事情を語らず、これから
行為に及ぼうとしている

異常な空間だった



詮索はしない、だけどこの雰囲気は耐えられそうもなく

つい昔の話を始めてしまうと想像以上に会話が弾んだ

あの時の田中の顔な

ふふっ、
あのあと一ヶ月ぐらい
イジられてたよね

学祭の時あいつが…

そういえば体育祭の…

自分たちの置かれていた異常な状況を忘れるぐらいに夢中になり

昔の思いが蘇ってくるのを感じていた



あの時、手に入らなかった
三城がすぐそばにいる

あの時届かなかった手が
今なら届く

…真咲

…シャワー浴びてくるね

このままで…ここ

あ…

欲望が体の中に
湧き上がってくる

少しづつ距離が
近づいていく







今、俺の手に



もう…挿入れるぞ
真咲…!!



あの真咲が

他の男のものになって
二度と手が届かないと
思っていた真咲が

ろくに前戯もしていないのに
すんなりと入った

こんなに濡らして
まさかおまえもまだ俺に
気持ちがあつたのか？

真咲の子宮口をイチモツで
叩くと、まるで
返事をするかのように
ビクンと反応する

こんなにヒクヒク
痙攣させて、
喜んでくれているのか？



無我夢中で腰を
振り続け

早々に絶頂が近づくのがわかった

そしてゴムをつけていないことに
今更気づき動揺している俺に

中に出して
いいよ

ピル飲んでるから

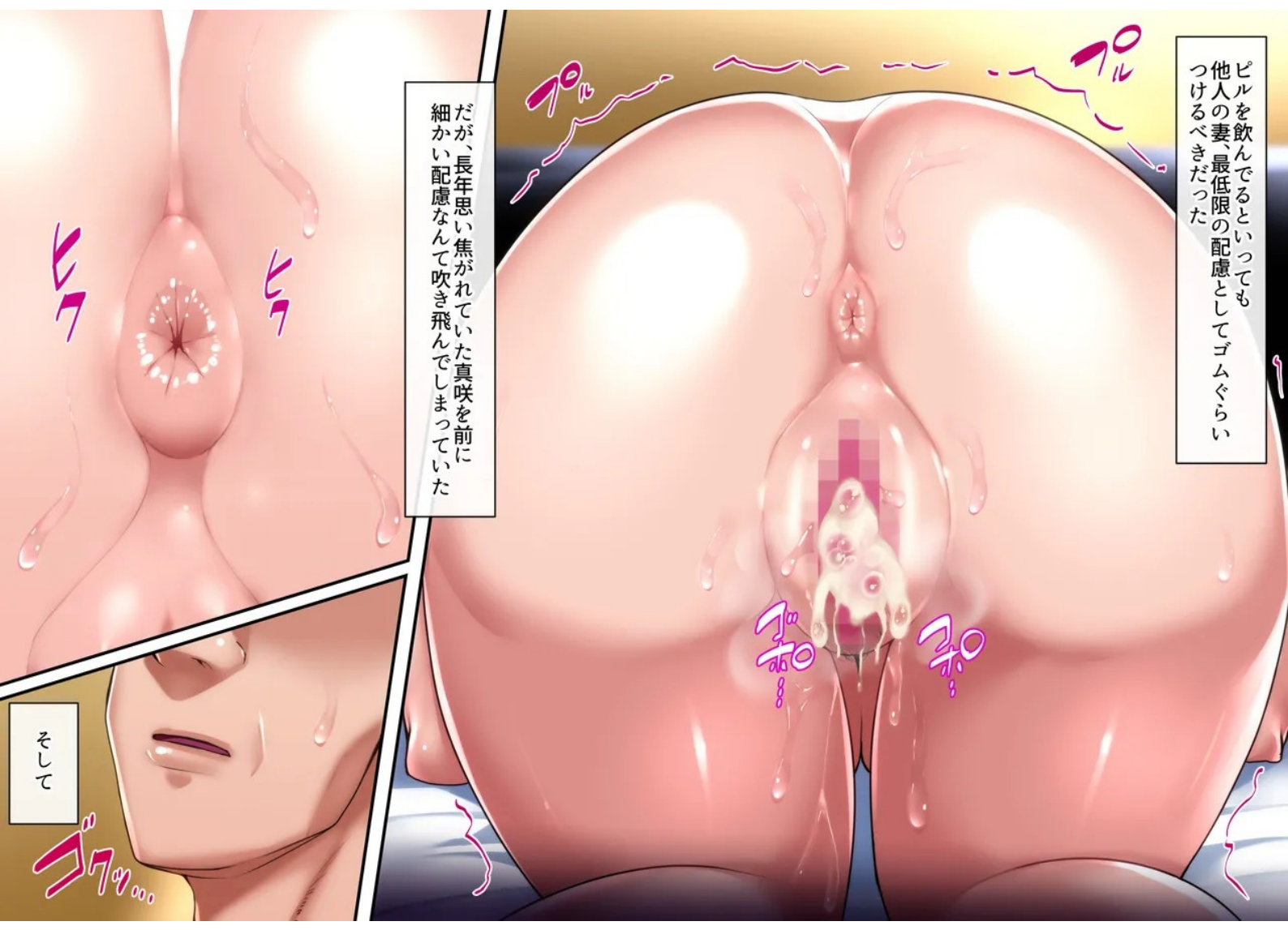


ピルを飲んでるといっても
他人の妻、最低限の配慮としてゴムくらい
つけるべきだった

だが、長年思い焦がれていた真咲の前に
細かい配慮なんて吹き飛んでしまっていた

そして

ゴク...





あんなに明るくて快活で
一切の汚れを感じさせなかった
真咲が：

俺以外の男に…！

こんな女にされちまいやがって！

こんなアナルセックスで
いやらしい声をあげる女に
なるなんて：

ぐわっ ぐわっ ぐわっ ぐわっ ぐわっ

ぐんぐん…

あゝ

あゝ

ぐわっ

いささか疲れたな
俺ももう歳か

あの：随分強引なこと
してしまつて：すまなかつた

いいの
色々溜まつてたんだよね？

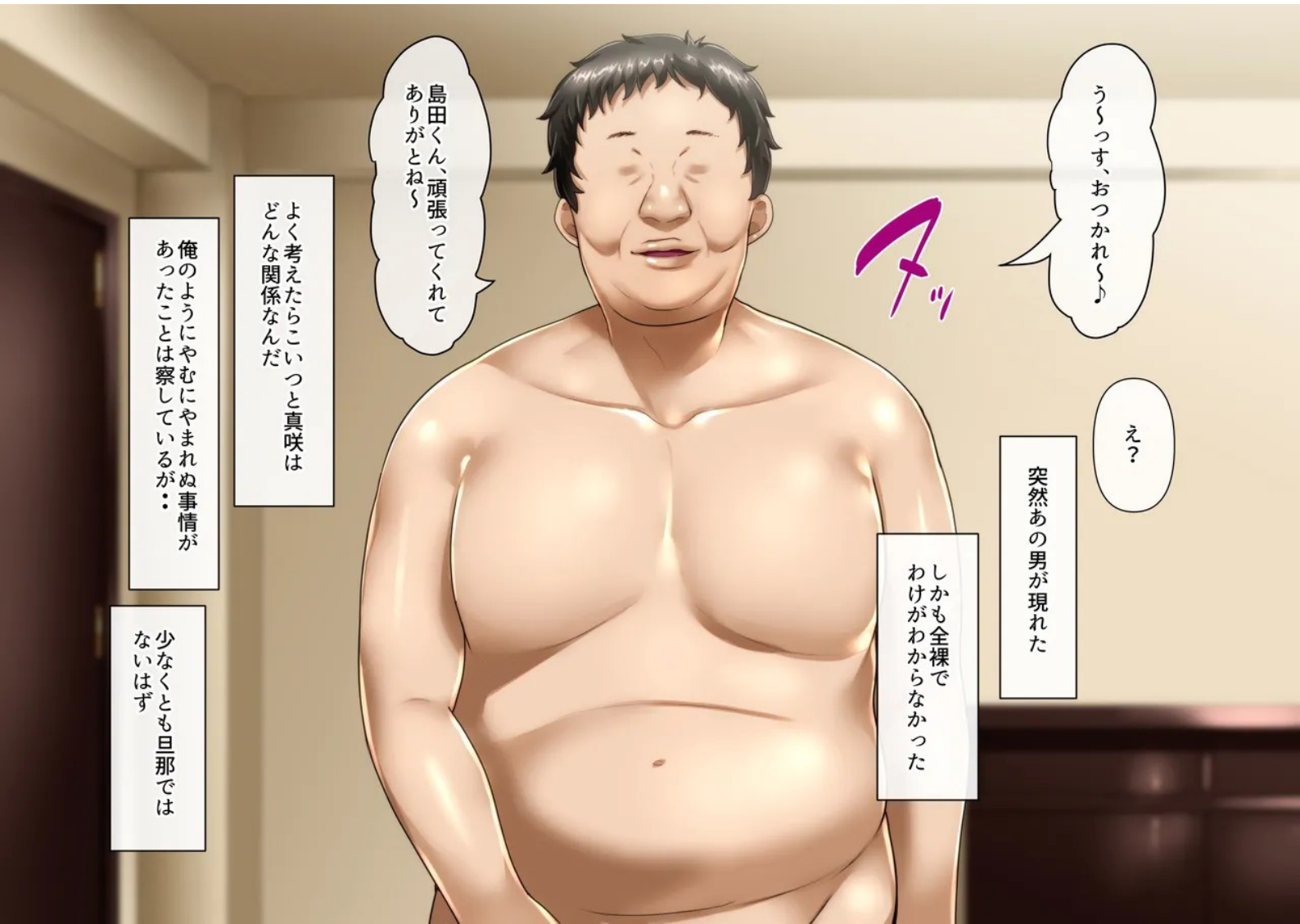
ああ：色々な

それに久しぶりに
おまえに会えて：こう
気持ちが：

...

なあ真咲：
よかつたらこれからも...





うっす、おつかれ〜♪

え？

突然あの男が現れた

アッ

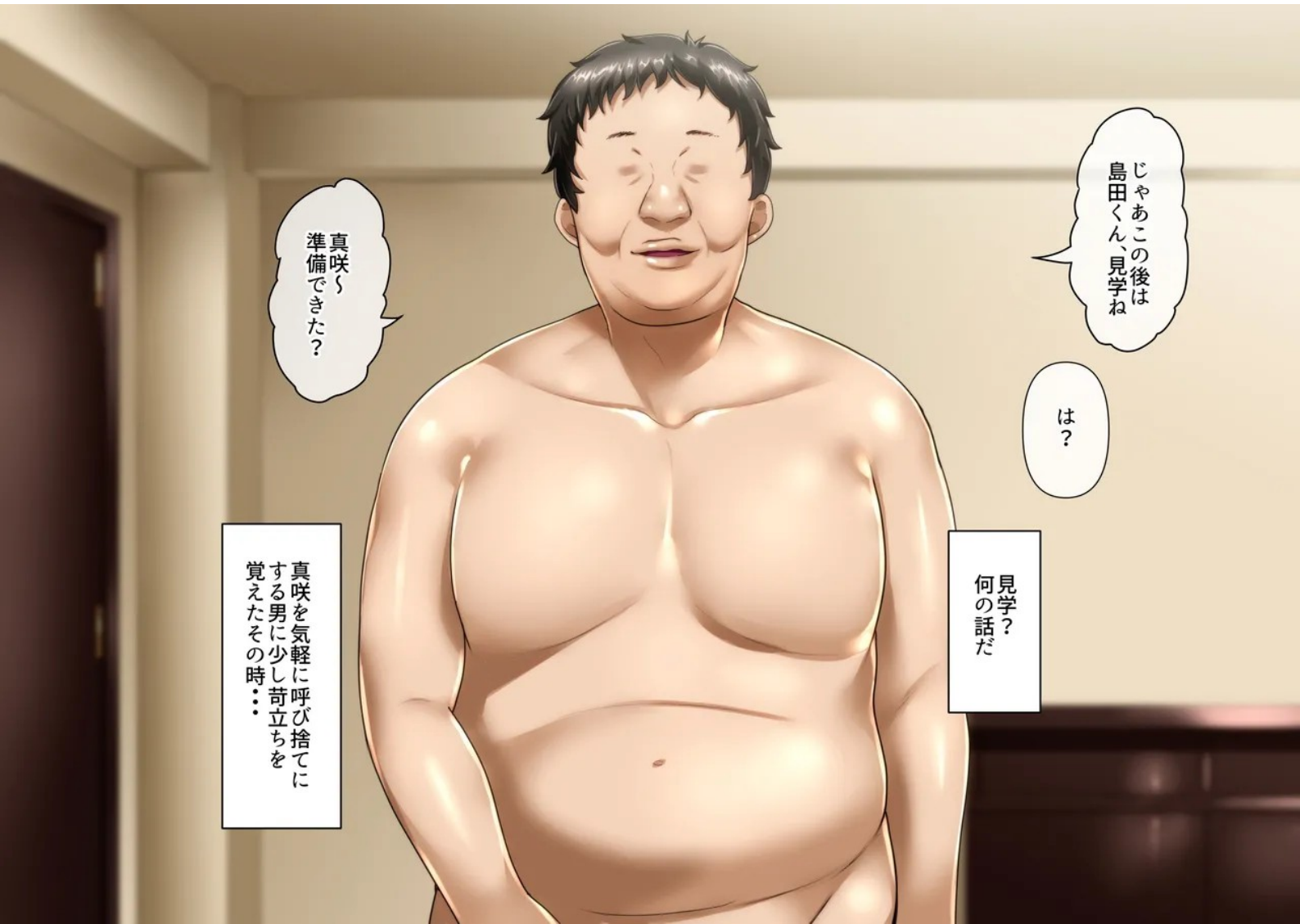
しかも全裸で
わけがわからなかった

島田くん、頑張ってくれて
ありがとうね〜

よく考えたらこいつと真咲は
どんな関係なんだ

俺のようにはやくにやむにやまれぬ事情が
あったことは察しているが：

少なくとも旦那では
ないはず



真咲
準備できた？

じゃあこの後は
島田くん、見学ね

は？

真咲を気軽に呼び捨てに
する男に少し苛立ちを
覚えたその時……

見学？
何の話だ



そして男の情婦であるかのように殊更大きな音をたてくちづけを交わし始めた



何の拒否もしない
真咲

いやが応にも聴こえる
男のヨダレを飲み干す
卑猥な音



男に近づく真咲

その姿に愕然とした

さつきまでは着けていなかった
下品な下着を身に着けていたからだ

目の前の光景に
理解が追いつかなかった

じゃあいつものアレ
からな

はい

どうか今日も...

木根様に墮とされて淫乱牝豚に成り下がったこの最底辺のマゾ女に

夫や他の男じゃ味わえない牝として最高の喜びを与えてくださるその極太チンポを

失神するまでジュボジュボぶち込んで

木根様の優秀な子種汁を卑しくてユルユルの豚子宮にたっぷりめぐんでください♡



嘘だろ…

あの真咲が…

顔を紅潮させて
尻を振りながら

挿入してほしいと
懇願していた…

それも考えうる最低な言葉で…

これは一体何なんだ…





よろしよくできまし...

アウウウ〜

たっ!

グググ

おほほほ

びびん

まさか今、挿入れられただけでイッたのか？

俺としている時はあんな声、一度も出さなかったのに...

まさか、俺とじゃ一度もイケなかったってことなのか...？

グググ

こんな喘ぎ声を本当に
女性があげるなんて：
フィクションの中でしか
聞いたことがないような
動物のような声

だが目の前の光景はフィクションではなく
現実だ：

バックから激しく突かれ
耳を疑うような喘ぎ声を
上げ続ける真咲



より密着し刺激が増したのか
声はより一層甘く淫靡に変化
していった

そしてそのまま足を
抱え上げられ
押し車のような体勢で
突かれる真咲

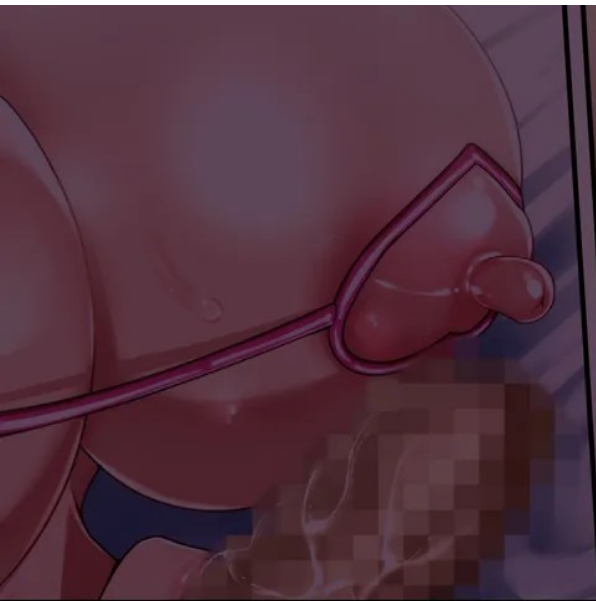




この男とのセックスは
そんなにいいのか

この数分の間だけで
真咲が何度もイッているのが
わかった

目を背けたい気持ちだが
異常な興奮によって
打ち消されていく



殊更に卑猥な音が響く

野蛮で下品な舌の音、バキューム音が部屋中に響き渡り俺はどこか別の次元に紛れ込んでしまったかのような錯覚に陥った

クワッ クワッ
クワッ クワッ
クワッ クワッ
クワッ クワッ

クワッ
クワッ
クワッ
クワッ
クワッ
クワッ



肉棒が膣奥まで届いていることが容易に想像できた

一突きされるごとに鳴き声としか言いようがない喘ぎ声を上げる真咲

俺がぼんやりしている間に再び挿入がはじまる



当然のように
行われる
膣内射精

嫌がるようなそぶり
すらなく、それを受け
入れている真咲

俺はただ黙ってその動物達の
交尾を眺めることしかでき
なかった



そうだ・俺も・真咲に・

その時になって初めて
俺の股間がどうしようも
ないほどバキバキに
膨れ上がっていることに
気づいた

性器から精液をたらしながら
ついさっきまで自分の中に
入っていたものを、自らの
口できれいにする
その醜態な姿を見つめながら



びしょ
ちゅる
ちゅる



俺も：あんなふう
に真咲の胸を物
みたいに弄
びたい

あの尻を舐めて
イジって、精液で
汚し尽くして
やりたい

あのマンコを俺の
肉棒で失神するまで
突きまくってやりたい

ボグッ
ボグッ
グググ
グググ

ブルブル

チン
チン
チン
チン

グググ...
ググ



泣き叫ぶまで責め立てて俺の女ですと叫ばせたい

ここまで淫らに堕ちた真咲を

この手で滅茶苦茶にしてやりたい

んっ
あ
あ

んっ
あ
あ
あ
あ

ブキッ
ブキッ

ブル

んっ
あ
あ
あ
あ

モミ
モミ
グズグズ

んっ

ブル

ブルッ

んっ
あ
あ

ブルッ

ブルッ
ブルッ

ブルッ
ブルッ







意識が飛んでいたのか
俺を呼ぶ声で目が覚めると

卑猥にアレンジされたあの頃の
制服に身を包んだ真咲が
やつに尻を突き出していた

よあ..

島田くん、もしあの時
私が引越さなければ
初めての相手はあなた
だったかもしれないね

そして男の手には信じられないサイズの
…何なんだあれは…とにかく
巨大でデカイ道具が握られていた

70
%
エッ

辛そうな笑顔で
俺に語りかける
真咲

やめてくれ…あの頃のことを
こんな状況で語らないでくれ…



あの後いろんなことがあってね
私、最低なことたくさん
覚えこまされちゃった...

失望したでしょ？

ふ...
う...

ふ...
う...

これ以上は俺の心が...

もういい：
もう何も言わないでくれ...

まさか：あれを入れる
わけじゃないよな...？

男は手に持った異様な
サイズの道具を
真咲のアナルの入口に
ぐりぐりと押し付けている



なんだ、何を
伝えたいんだ
真咲：

あの時…本当はね…

本当は…



その時の最低の表情が
俺が覚えている最後の真味の顔だ

その後のことはほとんど覚えていないが
朝までずつと二匹の動物の交尾を
見せられ続けたんだと思う

島田君、最後まで付き合っ
てくれてありがとね

色々の良い映像が
録れたよ

その表情良いね！
手間かけて探した
甲斐があったよ

あ、やっぱり悔しかった？
悔しかったよね

それにしてもきみが
呆然自失状態なのは
フル勃起してるのは
最高に笑えたなあ

じゃあおつかれ

ただひとつ、俺が後生大事にすると
決めていた美しい出が
一人の男の歪んだ娯楽の贅となり
永遠に消え去ったことだけは
はっきりとわかっていた

後日、あの男は約束を守り
俺の会社はなんとか持ち直した

喜ぶ仲間達、俺も嬉しかった

だけどこの胸にぽっかりと穴が
空いたような感覚はなんなんだろうな

そうだ、今夜は久しぶりに
妻を抱こう

やってみたいことが
たくさんあるんだ

完

この度は「おまえの思い出の壊され方」を
お買い上げ頂き誠にありがとうございます。

今回のエピソードは前作本編に入れづらかったので
別で出させていただきました

前作とのつながりがあるため早めに出したく思い、
自分にはありえない速度で仕上げたので差分等あまりない
ものになってしまい悔しいです 反省しています。

そして次回こそはやばい系の人を出さないようにしたいのですが
無理かもしれません・・・

申し訳ありません

今後ともイジイセをよろしくお願いいたします。

イジイセ 2021年9月